

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室さくらん房			
○保護者評価実施期間	令和7年7月1日		～	令和7年7月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間	令和7年7月1日		～	令和7年7月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年8月20日			

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭以外で安心して過ごせる子どもたちの居場所であること	自分を理解してくれる人がいる、助けてくれる人がいると感じられ、少しでも不安が軽減するような支援やこうあるべきという考えを持たず、状態にあわせた対応を心がけている。	安心して過ごせる場所として共に過ごす人や仲間の心の状況も大事になってくる。 一人ひとりの心身の状態を観察しながら職員で最善を考え、ソフト面、ハード面を整えていく。
2	個性に合わせた支援の提供 柔軟なプログラムの組み換えが行えること	子どもたち一人ひとりの興味や関心を広げ、好きなことや落ち着いて取り組めることを通してスキルアップを目指している。	さまざまな経験を通してスキルアップを目指しながら活躍できる場所として機能させることで自分らしく生活が楽しめるようにしていく。
3	集団ではなく個のワークを優先した支援の提供 子ども一人一人に必要な支援を個別に対応していること	保護者の方からの要望や、子ども達が苦手と感じていることに対し、本人の気持ちや心の動き、流れの中で取り組めるようにタイミングを大切にしている。	個の力を伸ばすことを大切にしながらも、人と人のつながりを感じられるようにすること。 集団の中の一員として全体のレベルアップにつながる支援を考えていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館、地域との交流などが難しい。	季節を肌で感じることも大切なことだと考え、天候なども考慮しながら町内の公園などに出かけているが、地域との交流の機会を多く持つことは難しい。 学校休業日など、時間にゆとりがある日にプログラムを組むなど検討し実行している。	個人の状況により「今は必要ない」「無理をしない」という選択もしながら社会とのつながりを絶たない支援方法を検討していく。
2	個々に合わせたワークを優先しているため集団行動に苦手さを抱えている児童の課題が見えにくい。	学校休業日には集団活動のプログラムを行っているが、平日利用日は一人ひとりがのびのびと穏やかに過ごすことを優先している。	平日の余暇時間での職員の関わりを工夫し、小集団で活動できるプログラムを提案することで子ども達が選択して取り組むことが出来るように検討していく。
3			